昭和大学病院

クオリティインディケーター（QI）成果報告
〔歯科〕

指標名

周術期口腔機能管理実施率

目標・ゴール

周術期口腔機能管理実施率 50%

目標・ゴール達成による効果

周術期に口腔機能管理を行うことは，術後肺炎，人工呼吸器関連肺炎，口腔粘膜炎，GVHD(移植片対宿主病)などの合併症予防，疾患の早期治癒，早期離床の支持療法となる。しいては，患者さんの QOL 向上，治療成績向上，医療費削減，健康寿命の延伸につながる。

2012 年度に以下の①-⑧に対し，周術期等口腔機能管理が歯科保険に収載された。患者さんの治療完遂の支持療法として，口腔機能管理，口腔衛生管理を行うことが目的である。

①頭頸部領域，呼吸器領域，消化器領域等の悪性腫瘍手術患者
②臓器移植手術患者
③心臓血管外科手術患者
④脳血管外科手術患者
⑤人工股関節置換術等の人工関節置換術患者
⑥口腔内に感染源となり得る病巣がある患者，口腔衛生状態が不良である患者，肺炎の既往がある患者又は低栄養の患者等，術後合併症（術後肺炎等）のリスクが高いと考えられる患者に対して実施される手術患者
⑦造血幹細胞移植患者，がん等に係る放射線治療，化学療法を予定・実施している患者，
⑧緩和ケアの対象患者

目標・ゴールに対する成果の状況

［成果］　周術期口腔機能管理実施率　47.5%

目標・ゴール達成度

☑□B　：目標を下回った

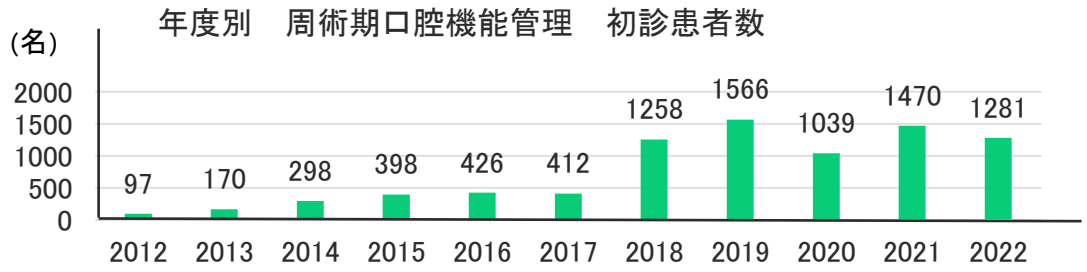
□A⁺：目標を多少上回って達成
□A　：目標を達成
□B⁺：目標を少し下回った
□B　：目標を下回った
□C　：目標を大幅に下回った
□ー　：外的要因により継続困難となった

目標・ゴールの課題・改善策

歯科・歯科口腔外科は，入院患者さんを対象としており，医師からコンサルテーション(依頼)をいただいた患者さんの歯科治療を行っている。ゆえに，麻酔科術前外来，各診療科からの依頼数の減少は，周術期の口腔機能管理実施率の減少に比例する。

全身麻酔手術件数は増加傾向にあるが，COVID-19 の影響により 2020 年度途中から周術期外来運用検討委員会が，開催されなくなった。これにより関連職種との情報共有が困難になり，麻酔科術前外来，各診療科からの依頼数が減少した。

目標達成および向上のためには，周術期外来運用検討委員会の定期開催と更なる医科歯科連携が必要と考える。



周術期口腔機能管理件数：2573 件，麻酔科術前外来件数：5418 件，全身麻酔件数：6488 件